

ナンバリング	授業科目名 (科目の英文名)	区分
M211L202	人間関係論 (Human Relations Approach)	専門基礎科目 心身の機構

必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
必修	1	2	後	木・4	氏名 川崎 隆 内線： E-mail: ***@oita-u.ac.jp

【授業の概要・到達目標】

人間関係、人と人の関係性は、大抵の場合、難問である。本講義では、臨床心理学の観点から、人間関係に関する知見を解説すると共に、受講生は実践を通じて人間関係を学ぶ。専門家になる動機を振り返る、自身のストレスや健康を考える、他者の話を聴く、他者に自分の思いを伝える、支え合う、コミュニティに働きかける、そうした体験を蓄積し、実践に役立てられる心理学を共に学んでいく。

具体的な到達目標	看護学科ディプロマポリシーとの対応						
	1	2	3	4	5	6	7
1. 人間関係の諸問題について、分析し述べる。	○	○				○	○
2. 自己理解のワークを通じて、自己理解に関する見解を述べる。	○	○	○	○		○	
3. 他者理解のワークを通じて、他者理解に関する見解を述べる。	○	○	○	○			○
4. 支え合いのワークを通じて、コミュニティ支援に関する見解を述べる。	○	○	○	○	○		

【授業の内容】

1	オリエンテーション、人間関係とは	9	他者理解③ (描画法：交互スクイグル)
2	自己理解① (援助の動機を振り返る)	10	支え合い① (チームアプローチと多様性)
3	自己理解② (ストレスと対処法)	11	支え合い② (多職種協働)
4	自己理解③ (家族)	12	支え合い③ (ピア・サポート：概説)
5	自己理解④ (アサーション)	13	支え合い④ (ピア・サポート：企画)
6	自己理解⑤ (セルフケア)	14	支え合い⑤ (ピア・サポート：実践)
7	他者理解① (傾聴の技法：反射、明確化)	15	支え合い⑥ (ピア・サポート：振り返り)
8	他者理解② (傾聴の技法：質問)		

【アクティブラーニングの内容・その他の工夫】

A：知識の定着・確認	○	様々な個人ワーク、ペアワーク (ロールプレイ)、グループワークを行う。「支え合い」では、聞き取りやアンケート調査、可能であれば実際の介入も行っていきたい。
B：意見の表現・交換	○	
C：応用志向	○	
D：知識の活用・創造	○	

【時間外学修の内容と時間の目安】

準備学修	参考文献や配布資料をもとに予習する。(15h)
事後学修	時間外にグループワークを行い、課題の準備を行う。(30h)

【教科書】

教科書は指定しない。

【参考書】

Corey, M. S. & Corey, G. (1999). Becoming a Helper (3rd) Brooks/Cole Publishing Company (下山晴彦監訳 (2004). 心理援助の専門職になるために—臨床心理士・カウンセラー・PSWの基本テキスト 金剛出版 ISBN-13 : 978-4772408226

【成績評価方法及び評価の割合】

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4
レポート	85%	○	○	○	○
ワークへの取り組み	15%	○	○	○	○

【注意事項】

成績評価はレポートの他、受講態度やワークの取り組み姿勢、出席状況なども含めて総合的に行う。レポートは、「自己理解」で1回「他者理解」で2回「支え合い」で1回課す。

【備考】授業の進行状況により、授業内容や順序を一部変更する場合がある。

担当教員の実務経験の有無	○	
教員の実務経験	大分県スクールカウンセラー（高等学校）、臨床心理士、公認心理師	
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無		
教員以外の指導に関わる実務経験者		
実務経験をいかした教育内容	現場の経験と研究の成果から、自己理解や他者理解の方法を提示、討議し、受講生の理解を深める。実際に支援を立案し実践する方法を紹介し、実践的観点から学べる環境を作る。	
授業形態	面接授業	